學會彙報

○昭和二十六年度漢文学会総会次第

日時　六月二十四日午前九時開始

場所　東京教育大学E四〇三教室

〈研究発表之部〉

一、文字学上より見たる本邦旧鈔古文孝経隷古定に就て　都立八高　青木木兎哉（20）

一、関于董西廂的異文　研究生　飯田　吉郎（19）

一、墨子に関する一考察　信州大学　千原　勝美（17）

一、史記正義版本考　研究生　水沢　利忠（16）

一、詩と史実（作詩時代考）　教育大学　鈴木　修次（16）

一、「経」解釈史（第一期）研究序説　北海道大学　加賀　栄治（16）

一、史記に現はれた漢代礼制の理念　静岡大学　伊藤　文定（13）

一、薩南学派の祖「桂菴」について　鹿児島大学　裏　善一郎（9）

一、黄老思想の成立について　教育大学　今井宇三郎（8）

一、僧義堂の文学観「禅文兼全」について　熊本女子大学　古沢未知男（8）

一、紀州藩の明徳学　和歌山大学　松下　忠（7）

一、漢文学習法の革新と教育職員免許法関係法規の改正すべき点について　福井大学　寺岡　龍含（6）

一、教材としての論語について　秋田大学　田口福司郎（客）

〈総会之部〉　司会　今井委員

一、開会之辞　小林委員

一、議事

一、議長選出　竹田会長当選

一、会計報告　内野委員

一、庶務報告　小沢・今井委員

一、会則改正準備委員選出ノ件　今井委員

一、竹田会長挨拶

一、懇談会

一、閉会之辞　内野委員

○昭和二十七年度漢文学会総会次第

日時　六月二十二日午前九時開始

場所　東京教育大学E四〇三教室

〈研究発表の部〉

一、緯書に見える黄帝について　研究生　中村　璋八（21）

一、史記に見える本紀以外の黄帝について　教育大学　安居　香山（客）

一、杜詩重言小論　研究生　谷川　英則（20）

一、略韻の韻母について　研究生　坂井　健一（20）

一、墨子兵抜巧考　信州大学　千原　勝美（17）

一、毛傳と爾雅　教育大学　鈴木　修次（16）

一、漢文法の規定詞と判断詞について　教育大学　牛島　徳次（11）

一、漢文教育の理念　福井大学　寺岡　龍含（6）

一、高校漢文教育の動向について　教育大学　尾関富太郎（8）

〈総会之部〉　司会　鎌田委員

一、開会之辞　今井委員

一、議事

一、議長選出　田波又男氏当選
一、庶務、会計報告　今井委員
一、新会則審議　可決　発效本日ヨリ
一、委員改選ノ結果　小林信明・飯田吉郎・鎌田正・河野六郎ノ四氏当選
一、竹田前会長挨拶
一、内野現会長挨拶
一、懇談会　諸橋先生挨拶
一、閉会之辞　小林委員

本年度学會委員

委員長　今井宇三郎
事務分掌
庶務　河野六郎・今井宇三郎・大竹修一
会計　鎌田正・安居香山・鈴木みに枝
研究一、小林信明・鈴木修次・大橋定雄
二、飯田吉郎・緒形暢夫・棚木光男・中野達

○卒業論文発表会　——二六・九・二八（金）——
一、史記における人称代名詞の諸問題　箕輪昭二君
一、東坡雑考—特に文学意識を中心として—　上木永生君
○卒業論文発表会　——九・二九（土）——
一、老子の研究　広田学君
一、古文籀文に於ける二、三の問題　牧野実子君
一、詩経解釈と国風篇に於ける人間性　小林信利君
一、西晋道家の性格　草野成虎君
○秋季講演会　——十一・二十（火）——
一、連語について　研究生　谷川英則氏
一、柳宗元の思想　京大教授　重沢俊郎氏
○卒業論文発表会　——二七・七・四（金）——
一、李長吉詩試論　石川一成君
一、白楽天「諷喩」の詩　井上正君
一、韋応物研究序説　大坂泰君
一、懐風藻の詩形とその憑拠　大竹修一君
一、先秦諸家の勝敗論について　加藤雅春君
一、人物志管見　——その成立過程と年代　金子泰三君
一、魯迅と革命文学　上林清暁君
一、荀子性悪説研究　鈴木総一君
一、遊仙窟の言語研究　——兒について　須藤勝助君
一、「来」から「来着」へ　滝川格子君
一、明末清初に於ける一思想—王夫子の識知論　原田悦穂君
一、揚雄の人間性について　山根五一君
○新制卒業論文発表会　——二八・二・二〇（金）——
一、詩経の音韻構成について　太田実君
一、五音集韻考　小松茂君
一、史記に於ける「矣」と「也」とについて　佐々木良君
——特に中国語法研究方法試論として——
一、王引之虚字論考　谷津秀勝君
一、鮑照詩研究—特にその楽府体を中心として　村主幸雄君
一、詩人杜甫—一時期に時ける人間杜甫の研究　松田稔君
一、陶淵明詩語彙考　毛利順男君
○同右　——二一・二一（土）——
一、平家物語漢文出典考　井関義久君
一、藤原頼長の経学再興政策　土屋裕君

卒業論文題一覧表

一、董仲舒性説考	石原弘也君
一、春秋公羊研究序説	大橋定雄君
一、揚子法言	西浜義明君
一、荀子の礼説について	野口三郎君
一、韓非子の説客観	福田芳典君
墨子引経相を論じて先秦時代に行はれたる或る派古経書の性質系統に及ぶ	内野熊一郎1
論原始儒教之社会響導慨念推移	小林信明〃
左傳礼説	田波又男〃
周易の研究	小島政雄〃
我国の律令に及ぼしたる支那文化の影響	市川本太郎2
楚辞の研究	上島一夫〃
詩と楽―文章としての詩より語としての詩への転換に関する想定	渡辺末吾〃
易学史	小沢文四郎4
孝経の研究	三井宇一郎〃
荀子と経学との関係「先秦並に漢代経学上に於ける荀子の地位」	竹倉二郎〃
孔子家語の研究	相徳定芳〃
日本に残存せる支那古韻の研究	飯田利行5
漢代教育制度攷	杉本重雄〃
常州学論語説	福家弘〃
中庸の研究	岡阪猛雄〃
易の研究	石島快隆6
漢代春秋公羊学の研究	鎌田正〃
中国現代詩史概観	倉田貞美〃
喪服制の研究	下山田光平〃
荘子の研究	寺岡竜舎〃
春秋左氏傳の研究	米山寅太郎〃
淮南子の研究	米山倚之〃
日本漢文教育論	高木佐〃
繋辞傳考	上原好一7
六朝より唐宋にいたる仏教と儒教の交渉について	植田袖〃
朱子に於いて大成したる人性説	坂柳童麟〃
楚辞の研究	上肥輝雄〃
陸象山の人物及その学説	吉田元定〃
儒教における五倫説	松下忠〃
詩経の成立と学説の展開	内藤由己男〃
五七言詩発達考	陳蔡煉昌〃
日本経学史	尾関富太郎8
朱子の研究	今井宇三郎〃
春秋公羊傳及公羊学の研究	佐川修〃
論語に関する研究	佐田弘道〃
儒教より見た水戸学の研究	古澤未知男〃
周易占筮考	田中聖一〃
春秋穀梁傳の研究	富山昇〃
十翼の研究「主として成立年代について」	雨宮重治9
宗廟祭祀の研究	荒井榮〃
支那言語学史	石山輿武〃
儒教に於ける道について	裏善一郎〃
先秦時代に於ける正名思想	大島一〃
我が国に於ける易学とその影響	鈴木陸雄〃

書經の研究…大誓洪範二篇を中心とせる　須藤　功〃
讖緯研究　渡辺弘一郎〃
爾雅研究序説　岩佐貫三10
老子研究　高橋俊英〃
胡適之論　仲井眞盛信11
「詩経」表現形式の研究　荒木雄二〃
梁任公論　市川憲一〃
黄宗羲研究　市木武雄〃
支那近世白話小説の語法に就いて　牛島徳次〃
春秋研究…春秋思想の史的発展　内田竜〃
報徳学の儒教的考察　大木春基〃
性説研究序説　栗原喜男〃
鄭玄学考　月洞譲〃
周禮禮記を中心として観たる上代の教育　新美保秀〃
墨学研究　堀池敬〃
南朝梁代の政治と学術　池田豊12
張横渠研究　笠井幸〃
支那小説の源流に関する攷察　川上儀三〃
王陽明思想の哲学的性格　倉西藤兵衛〃
新楽府の成立と白楽天の思想　鈴木一〃
魏晋南北朝の老荘思想　橋本礼一〃
韓非子に於ける道家思想　寺尾達郎〃
儒教が国教になるまで　相原米市13
王粛学及鄭王異同考　伊藤文定〃
牟子理惑論研究　清谷宗暁〃
法言研究　藤川正数〃
老子の思想　佐藤憲三〃

顔季の実学と水戸の実学　松沢章〃
死亡　並河達夫〃
死亡　上山環〃
漢初淮南学考　相川勝衛14
呂覧成立の研究　坂本右〃
管子經言の研究　中村章太郎〃
先秦に於ける荀子の特殊的地位　長谷川一雄〃
韓非子の研究　横山憲吾〃
先秦法家思想の研究　但野晋〃
ナシ　鵜城紀元15
〃　勝又昌義〃
〃　高瀬允〃
〃　畑実〃
爾雅匡名補証　廣見諠二〃
王子の学について　堀之内光夫〃
楊朱の研究　加賀榮治〃
禮記月令的研究　木内勇〃
鄭注論語と孔注論語　小林実〃
社之原初的性格与其展開　志賀一朗〃
紅樓夢的研究　―人間性の解明を中心として　熊谷尚夫〃
繋辞傳と其の道の研究　鈴木修次〃
―純粋経験の場に立脚せる繋辞傳の一解釈―　畠山一郎〃
春秋学研究序説　平野賢郎〃
墨子思想研究　水沢利忠〃
上代郊禮考　井口幾次郎〃
加藤清雄〃

現代華語の文字と音節の関係についての研究	石川重雄	17
文学革命の本質とその源流	木島清	〃
楚辞の表現 ―離騒を中心とする―	田中信之	〃
礼注に現われたる三家詩研究	高梨実二	〃
墨子成書考	干原勝美	〃
朱子の詩経学	塚本正	〃
孔子思想之展開	広畑輔雄	〃
三民主義の歴史的展開と中国傳統の精神	松本稔	〃
周易卜筮の研究	遠藤一郎	18
管子考	緒形暢夫	〃
康熙帝の図書編纂事業	古賀周作	〃
白居易 論じて白氏文集の傳来より平安文学史の影響に及ぶ	猿渡是達	〃
中国文字論 ―中国文字之原始及其表意性―	志村和久	〃
古代田制の研究	長谷川節三	〃
中国古代夷蠻戎狄思想考	細見宏	〃
中庸の研究	宮沢康造	〃
張横渠之研究	水沢竜夫	〃
老子思想体系	深沢厚吉	〃
中国に於ける家族と社会	阿部邦義	19
西廂記の文章	飯田吉郎	〃
宋学研究序説	牛山正雄	〃
魏晋文学の傾向と清談	佐藤信久	〃
山海経を中心とせる古代の山嶽祭祀	進藤善之	〃
詞の生成過程について	池沢正夫	20
中国上代思想史に於ける殷的性格	泉隆弐	〃
中国社会における科学の成立	大石豊	〃
周易に於ける人間理想像	木村郁二郎	〃
中国語音研究 ―特に顔氏家訓音辞篇を中心として	坂井健一	〃
杜詩形態論	谷川英則	〃
中国書道史上に於ける王羲之の地位	塚田清策	〃
陶淵明の研究	中川太郎	〃
説文解字学源流考	青木木菟哉	〃
唐宋傳奇小説所見	内山知也	〃
先秦名家の研究	山本哲夫	〃
中論と荘子	柳俊一	〃
文心雕龍に於ける文学意識	石崎精亮	21
土佐に於ける朱子学の源流とその展開	大野知二	〃
水滸傳研究	狩野直助	〃
周濂溪の性命説	功刀正	〃
五四運動研究	小寺和夫	〃
魯迅文芸の研究	真田光雄	〃
世説新語の語法について	神保侃司	〃
論語傳流考（三論を主として）	戸田八蔵	〃
緯書の成立	中村璋八	〃
中国古代音楽研究	本田義幸	〃
物徂来の学説研究	渡辺一雄	〃
宋詩の研究 ―特に蘇東坡を中心として―	上木永生	22
西晋老荘思想家の性格	草野成虎	〃
王陽明の思想	功刀敏子	〃
詩経に於ける人間性	小林信利	〃
殷代に於ける都邑と社会生産状態	神藤末吉	〃
老子の研究	広田学	〃
説文研究 ―特に古文籀文篆文の相関々係について	牧野実子	〃

史記に於ける人称代名詞の諸問題	箕輪昭二	〃
李長吉研究	石川一成	23
白楽天研究	井上正	
韋応物研究序説	大坂泰	
本邦上代漢詩研究	大竹修一	
人物志の人間学的考察	金子泰三	
魯迅文学の研究	上林清晃	
先秦諸家の勝敗論に就いて	加藤雅春	
荀子の性説とその背景	鈴木総一	
「来」から「来蘇」へ	滝川格子	
識知論	原田悦穂	
遊仙窟論考	須藤勝助	
楊雄の研究	山根五一	
董仲舒性説考	石原弘也	新1
平家物語漢文出典攷	井関義久	
詩経音韻構成論	太田実	
春秋公卒学研究序説	大橋定雄	
五言集韻攷	小松抜	
史記に於ける「也」と「矣」について――	佐々木良	
特に中国語研究の方法試論として		
鮑照詩研究 ―特にその楽府体を中心として―	村主幸雄	
台記を通して見た藤原頼長の学問	土屋裕	
法言に見られる楊雄の学説	西浜義明	
荀子の礼説について	野口川一郎	
韓非子研究	福田芳典	
詩人杜甫―一時期に於ける人間杜甫の研究―	松田稔	
陶淵明詩研究	毛利順男	
王引之虚字論考	谷津秀勝	
思想よりみたる漱石の漢詩	吉儀寿雄	

東京教育大学漢文学会々則

一、本会は東京教育大学漢文学会と称し、事務所を東京教育大学東洋文学研究室に置く

二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図るのが目的である

三、本会の会員は左の通りである

1　東京教育大学東洋文学及び東京文理科大学・東京高等師範学校漢文学関係教官（退官者を含む）

2　東京教育大学東洋文学専攻学生及び卒業生並に東京文理科大学漢文学専攻卒業生

3　其の他入会を希望する者

四、本会の主な事業は左の通りである

1　総会　年一回

2　例会　年約四回

3　会報及び会員名簿の発行

4　其の他必要な事項

五、本会の役員は左の通りである

会長　一名　委員　若干名

六、会長は本会を代表し委員と共に運営に当る

委員は委員会を組織し会の研究会計庶務の業務を分担する

七、会長には主任教授を推す

委員は東京教育大学学生中から五名其の他から若干名（一般会員より四名及び東京教育大学助手）を会員の互選（学生委員は学生の互選）によつて選挙する。その任期は二年（学生委員は一年）とする。但し重任は差し支えない

八、会員は会費年額参百円（但し学生は半額）を納める

九、本会会則の変更は委員の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならない